

第三次佐久市地域福祉計画・地域福祉活動計画(素案)に対する意見募集の実施結果

1 意見募集の概要

(1)意見募集期間

平成29年12月14日(木)～12月28日(木)

(2)計画案の公表方法

ア 佐久市ホームページへの掲載

イ 佐久市役所本庁市民ホール、本庁福祉課窓口、各支所高齢者児童福祉係窓口に閲覧用として設置

(3)意見募集方法

ア 郵送

イ 電子メール

ウ ファックス

エ 直接持参(佐久市役所福祉課または各支所高齢者児童福祉係)

2 意見募集の結果

(1)提出された意見 24件2名

(2)提出された意見の概要とそれに対する市の考え方 別紙のとおり

3 いただいたご意見及びご質問に対する回答

No	意見要旨	回答
1	区や隣組・班などの顔の見える範囲での支え合いができる「福祉委員会」(仮称)等のネットワークを、地域の実情に合わせて、行政区単位で組織していく。	<p>地域における支え合いの仕組みづくりにつきましては、大変重要なものと考えております。いただいたご意見につきましては、今後の福祉施策を考えるうえでの参考とさせていただきます。</p> <p>(社協より回答)</p> <p>誰もが安心して生活できるよう、市と連携を図りながら、今後の活動計画を考えるうえでの参考とさせていただきます。</p>
2	地域福祉に必要な担い手・サポーターとして、区長、民生児童委員などと連携・協力しながら地域福祉の担い手となる、「福祉推進委員(協力員)」を、各区に配置していく。	<p>地域福祉を支える担い手の不足は、大きな課題と考えております。いただいたご意見につきましては、今後の福祉施策を考えるうえでの参考とさせていただきます。</p> <p>(社協より回答)</p> <p>平成4年から、社協では市の委託を受け「福祉ネットワーク活動事業」を市内40地区で実施してきました。平成28年度で事業は終了となりましたが、この事業では「福祉ネットワーク推進委員」を設置し、区内のきめ細かな福祉問題を取り上げ、問題解決を早期に図り、見守り活動を行いました。実施地区の</p>

		<p>中には、そのまま引き続いて「福祉推進員」として活動している区もあります。</p> <p>今後につきましては、いただいた資料等も参考にさせていただきます、市と連携を図ってまいります。</p>
3	<p>小地域での地域福祉の仕組みをつくり、推進していくために、「地区社協」を小学校単位で組織して、地域福祉を担う中核としていく。できれば、地区社協単位で地域の実情に即した「地域福祉計画」も作成していく。</p>	<p>(社協より回答)</p> <p>地区社協事業につきましては、地域それぞれの課題が把握できるという意味で、大変重要な事業であると考えております。</p> <p>いただきました資料等も参考にさせていただき、行政・区長会・民生児童委員協議会等関係機関とも情報を共有していきたいと考えております。</p>
4	<p>今後、暮らしの基盤となる地域、とりわけ、暮らしに身近な地域である行政区等をエリアとする「小地域」における、住民主体の小地域福祉活動の持つ意味と暮らしにおける役割はますます大きくなっていきます。その活動を市全体で、継続的に支援する、社会福祉協議会の役割を強化すると共に、地域福祉活動コーディネーターを各地区に配置する。</p>	<p>(社協より回答)</p> <p>現在社協には、地域福祉活動コーディネーターという職名では配置しておりませんが、いただいたご意見につきましては、地域福祉活動を進めるうえでの参考とさせていただきます。</p>
5	<p>p15の「障がい者福祉展」参加者も減ってきている。p18の「ふれあい広場」など、同様のイベントは大きな取り組みとしてまとめることで、参加者や内容の充実につながるのではないか。</p>	<p>今後の市施策の参考とさせていただきます。</p> <p>(社協より回答)</p> <p>参加団体等の意見も大切かと思っておりますので、意見を集約したうえで、今後市とも協議してまいります。</p>

6	<p>p18「合理的配慮に努めましょう」とあるが、実際には何が必要で、何が困難か、の段階ではないか。「合理的配慮の意見を募り、具体化していきましょう」という文章にはできないか。</p>	<p>障がい者への合理的配慮につきましては、市民の皆様にもまず理解を深めていただきたいと考えております。いただいたご意見につきましては、個別計画において参考とさせていただきます。</p>
7	<p>p19福祉体験教室 これまで実施してきて、決して否定するわけではないが、次のステップに移行するべきではないか。小諸養護学校との一日交流や、車椅子スポーツの試合等。</p>	<p>(社協より回答) 現在、中佐都小学校、泉小学校、田口小学校、佐久平総合技術高校浅間キャンパス・臼田キャンパスでは、年数回小諸養護学校との交流を行っております。また、福祉体験教室のメニューには、車椅子スポーツ(バスケット、スラローム競争等)の他に、視覚障がい者スポーツ(フロアバレー、ゴールボール等)も含まれており、学校側より希望があれば講師の調整を行い、開催しております。</p>
8	<p>地区社協の組織強化 イメージが湧かない。御代田町のふれあい祭りはかなり大規模、広範な参加であり、地区社協が模擬店まで出す。日常活動の違いだと思うが、少なくとも各社協の日常活動の把握、交流の上に活動展開があるのでは。</p>	<p>(社協より回答) 佐久市社協では、区長会、民生児童委員協議会、日赤奉仕団、地区公民館役員等が組織を作り、市内7か所(浅間・野沢・中込・東・臼田・浅科・望月)で地区社協を設置しております。活動内容につきましては、社協広報紙「ぴーぷる」「ホームページ」等で随時報告しております。主に「高齢者お楽しみ会」「先進地視察」「研修会」「講演会」等を行っております。今後は事業を通して、地区の課題等について協議し、組織を強化してまいりたいと考えており</p>

		ます。
9	p29男女共同参画について、実質的な男女共同参画事業の主体になるべき。例えば香川県高松市では、ファミリーサポート事業の主体は男女共同参画。佐久市も検討をしてはどうか。	いただいたご意見につきましては、今後の市施策の参考とさせていただきます。
10	p34サポートブック虹のかけはし 文章の流れが少しおかしい。配布が少ない現状のため、福祉課、各支所、保健センター、療育支援センターなどの窓口に置いてはどうか。	文章については修正させていただきました。 虹のかけはしの配布につきましては、今後の市施策の参考とさせていただきます。
11	p36公共施設のバリアフリー化、施設更新時の設置だけでなく、必要な公共施設にはバリアフリー化工事をするべき。	いただいたご意見につきましては、今後の市施策の参考とさせていただきます。
12	パーキング・パーミット制度について、公共施設の区画整備、利用促進周知の次のステップ段階ではないか。	
13	障がい者雇用について、セミナーの周知の次のステップ移行を進めないと言間に合わない。障がい者雇用についての企業説明会を主催する、ジョブコーチの推進等。	
14	p38バリアフリー化 理解を深める、努めるでは弱いのでは。「推進する」という言葉の方が良いのではないか。	バリアフリー化につきましては、理解を深めたうえで、推進することが適切ではないかと考えているため、今回の計画では理解を深める・努めるという言葉で掲載したいと考えております。

15	<p>バリアフリーマップについて、ホームページの改善と紙での配布をした方が良いのではないか。</p>	<p>(社協より回答)</p> <p>平成28年度、関係者の協力をいただき、バリアフリーマップ作成検討会を開催し、社協ホームページへの掲載申込みを呼びかけました。その後佐久大学信州短期大学部の学生と教職員の協力を得て、バリアフリー情報の確認を行い、平成28年10月1日よりホームページにアップしました。ホームページについては、随時申込みを受付・更新し、利用者が見やすいように心がけております。</p> <p>また、平成29年度「長野県地域発元気づくり支援金」を受けて、紙ベースの「バリアフリーマップ」を作成し、出来上がったマップは、公共施設や道の駅、関係団体等に配布いたします。</p>
16	<p>p39福祉施設の機能の充実。機能はもちろんのこと、実情から考えれば提供するサービスの量の拡大も入れた方が良いのではないか。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の市施策の参考とさせていただきます。</p>
17	<p>就労支援 社協の項で書かれているため無理があると思うが、就労の場の拡大、工賃アップの取り組み、生活介護、就労 A 型事業所にも言及するべきではないか。</p>	<p>(社協より回答)</p> <p>社協では現在、指定管理を受けて、就労支援 B 型施設を2か所運営しております。利用者には、より多くの工賃が支払えるよう、また、利用者が生きがいを持って働き、一般就労につながるような環境づくりに力を入れてまいります。</p>

18	p40, 43障がい者自立生活支援センターについて、実際の在宅障がい者支援になっているのか、検証はしているのか。在宅障がい者支援のニーズから考えるなら、精神障がい者に特化してもいいのではないか。	いただいたご意見につきましては、今後の市施策の参考とさせていただきます。
19	福祉のしおり わかりやすく、高齢者、子育て、障がい者別に作成してもいいのではないか。	
20	p47, 51災害時住民支え合いマップとあるが、その前に福祉避難所こそ必要なのではないか。	
21	健康づくりの推進 障がい者スポーツの推進は入らないのか。なぜ障がい者スポーツが盛んにならないのかといえば、設備がないからに他ならない。長野サンアップルのような施設を作ってほしい。	
22	p66生きがいづくりの推進 バリアフリーの保養センター(バリアフリーの温泉施設)の検討をはいかがでしょうか。	
23	在宅の心身障害者と家族への旅行とあるが、それを否定はしないが、そういうことに参加できない障がい者(特に精神障がい者)が参加できそうな計画案は検討できないか。	(社協より回答) 年1回「希望の旅」事業の名称で開催しております。参加者の中には、精神障がい者の方もいらっしゃいます。

24	p67高齢者は増えているのに、老人クラブが減ってきている状況はどう分析しているのか。	<p>65歳以上の方でも就労しており、活動に参加することが難しい方や、他の活動に参加する方など選択肢の幅が増えていることから、「老人クラブ」への加入が減少していると思われます。高齢者が集い、交流できる場を設けることは、介護予防につながり、高齢者の社会参加の観点からも重要であることから、地域で助け合える地域コミュニティの形成が課題と考えております。考えられる課題につきましては、p68からの施策の方向によって解決していきたいと考えております。</p> <p>(社協より回答)</p> <p>老人クラブに入会している人の多くが70代後半～80代であり、代表を務められる人がいないため、老人クラブの解散、休会となるところが多いのが現状です。社協では、高齢者の閉じこもり防止、生きがいづくり等の目的で「ふれあいいいききサロン」の推進に力を入れております。</p>
----	--	--